

普及活動情勢報告（令和3年1月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

新規就農者の目標達成に向けて ～栽培状況を現地確認～



就農年別、技術習得の違いを確認

12月23～25日の3日間、JA高知県春野胡瓜部会の新規就農者の栽培状況を現地確認しました。就農1～5年目まで総勢15戸ほ場を訪問し、R3園芸年度の栽培状況や個々の目標に向けた取り組み状況を聞き取りました。

営農指導員、栽培担当普及指導員の同行もあり、その場ですぐに栽培管理や病害虫対策についてアドバイスできたため、農家からの反応は良好でした。

普及所は今後、個別面談による半年分の取りまとめ確認や、R2年決算書を参考にしながら、経営コンサルティングを行っていきます。

UECS 対応型環境制御器の導入支援 ～新たな環境制御技術の推進～



UECS 対応型環境制御器

12月7日と15日に2名の生産者に、UECS対応型環境制御器について情報提供を行い、導入意向を確認しました。UECS対応型環境制御器とは、低コストでハウス内環境の測定や制御ができる機器です。普及所は、コスト低減効果や実際の環境制御方法について説明しました。

生産者からは、「実際に使いながら、問題が無ければ他のハウスにも導入していきたい」など、導入に向けて前向きな反応がありました。

普及所は、今後も環境制御技術や機器などの情報を生産者に発信していきます。

農福連携の情報を共有 ～高知市農福連携研究会の開催～



安芸市での取り組みを学ぶ

1月8日、高知市役所において「第3回高知市農福連携研究会」を開催し、農福連携の関係者20名が参加しました。これまでの活動実績やマッチングの状況を情報共有した他、今後開催予定のJA三里園芸出荷場見学会や「農福連携サミット in 高知市」の開催について検討しました。

さらに、今回は安芸市で活躍されている就労支援サポーターに参加して貰い、高知市と安芸市、それぞれの農福連携の取り組みについて情報交換し、非常に有益な会となりました。

普及所は引き続き農福連携事例を増やす地道な活動と、農家への意識啓発のためのイベント等の開催に取り組んでいきます。

農福連携見学・体験会を開催 ～JA 高知市三里園芸出荷場で箱折り作業見学～



賃金は雇用による時給と、委託による出来高制の両方を説明

1月20日、JA高知市三里園芸出荷場において農福連携見学・体験会を開催し、福祉関係の10事業所等から28名（職員16名、利用者12名）が参加されました。普及所から就労条件等を説明した後、新ショウガの箱折り作業を見学し、実際に体験もして貰いました。

参加者からは、「施設外就労を検討したい」「施設に持ち帰って作業は可能か」と、希望する事業所も複数出て来そうな様子でした。

普及所は引き続き、状況を確認しながら、農福連携のマッチング成功事例に結びつくようフォローしていく予定です。

今年のピーマンはどうだよ ～ピーマン現地検討会～



ハウス内で活発な意見交換

1月22日、JA高知市長浜支所園芸部促成ピーマンほ場にて現地検討会が開催され、生産者6名が参加しました。

令和3園芸年度から促成ピーマン栽培を始めた2戸のほ場を巡回し、栽培状況や気になる点を中心に活発な意見交換が行われました。今作は全戸で硫黄くん煙剤が導入され、うどんこ病の発生は少なく推移しており、その他の病害虫の発生も少なく生育は順調です。普及所からは、毎年多発するうどんこ病やモトジロアザミウマ対策について説明するとともに、引き続き適切な栽培管理を呼びかけました。

今後も生産者やJAなどと連携し、ピーマンの生産安定に向け支援をしていきます。